

Franz von Bayros 関係資料 3 点の保存・修理報告

鈴木英治・石井みゆう・高橋美貴

1. Franz von Bayros について

フランツ・フォン・バイロス (Franz von Bayros, 1866 年 5 月 28 日 - 1924 年 4 月 3 日) は、(現在の) オーストリアあるいはドイツを中心に活躍した画家あるいは挿絵画家である。19 世紀末から 20 世紀初めにかけてヨーロッパに広まり、世紀末のウィーンで花開いた退廃的な芸術表現者の中の一人である。彼の作品を表現する Galante という言葉通りの、官能的でありながら繊細で品のよい作品を多数制作した。制作の中心は書物の挿絵やエロティックなイラスト作品集などであるが、その時代を代表する Exlibris(蔵書票)の制作者としてもよく知られている。

バイロスは 1866 年にオーストリア帝国 (現在のクロアチア) ザグレブに生まれる。彼の家系は古くはスペインの王族に仕える貴族で、王家の婚姻にともなってオーストリアに移ったといわれている。父のオットーはオーストリア南部鉄道の高官であり、裕福な家庭に育ち 17 歳でウィーン美術アカデミーに合格し入学して絵画を学ぶが、22 歳の時に父が急死してしまい、家のために画家の道を断念して役人になろうと考えるが家族が反対されて画業に専念する。ウィーンではヨハン・シュトラウス 2 世などとも交流し、彼の娘と 1896 年に結婚する。音楽への強い興味は作品にも反映され、彼の優美な表現の源泉でもあったと考えられる。しかし結婚は 1 年で破局を迎え、翌年の 1897 年にミュンヘンに移りそこのクニックル美術学校に入学し再出発を図る。1904 年にミュンヘンの画商によって大規模な彼の個展が開催され成功をおさめる。それにより彼の作品が知られるようになり、1904 年から 1908 年の間しばしばパリやイタリアなどを巡り制作の研鑽をかさねる。

1905 年頃から官能的な文芸作品の挿絵やエロティックな作品による企画画集などの仕事の依頼が多くなり、1914 年ころまでに彼の代表的作品集の出版も立て続けに行われた。そのような中、1911 年に画集『Tales at the Dressing Table』(1908 年ミュンヘンで刊行) が猥褻罪でミュンヘン警察から告訴され、バイロスは公判を避けて再びウィーンに戻る。しかし、その後も挿絵と蔵書票制作の仕事は途切れることなく入ってきた。1913 年にはウィーンでドロシーという女性と再婚をするが、ヨーロッパではバルカン戦争から第一次世界大戦にいたる混乱の時代であったため、彼も経済的な影響を大きく受けて困窮が生活に暗い影を落とす様になる。1921 年のダンテ生誕 600 年記念祭のために「神曲」をテーマにした水彩画 60 点を発表し、高い評価を得るが経済的には得るものが少なかった。1924 年にウィーンの自宅で仕事中に脳溢血のため倒れ、そのまま 58 年の生涯を終えた。生活のための過労が原因といわれている。

2. 対象資料について

1. Franz von Bayros 『Im Garten der Aphrodite』

18 点のイラスト作品をコロタイプによって印刷して台紙に添付した作品集。作品集の構成は、作品 18 点以外にコロタイプで刷ったイラストをともなったタイトルページ、イラスト 18 点のタイトルリス

トと裏面に作品リストと刊記を印刷した1丁が含まれている。未綴の状態で一括してオリジナルホルダーに納められている。『Im Garten der Aphrodite』はバイロスの代表的作品集といわれているが、刊行地、刊年が不明であり、複数の異版と収納ホルダーのバリエーションが存在し、当該資料がどのような位置づけにあるものかは不明である。刊記には350部限定出版とあり、本冊には140番の番号が振り当てられている。

『Im Garten der Aphrodite』の18点を印刷しているコロタイプ (Collotype、ドイツ語では Lichtdrucke) は、1856年にフランスの科学者 Alphonse Louis Poitevin によってその原理が発明された。コロタイプは写真製版技術による最初の連続階調印刷である。コロタイプで刷られた現存最古のものとして知られている印刷物 (1868年) は、ミュンヘンの Joseph Albert がドレスデンの王立印刷所で制作したルーベンスの複製 (モノクロ) である。彼はコロタイプにより写真製版を利用した三原色分解印刷に成功した人物でもある。

バイロスは、1900年代から1920年代わたる制作期間中に、かなり多くの本の挿絵や作品集の画像印刷にコロタイプを用いており、その技術の繊細な表現力を最大限に利用した作家といつて良いだろう。『Im Garten der Aphrodite』は数点の異版も含めて18点の作品は全てコロタイプで印刷されている。

2. Franz von Bayros 『Zwölf Ausgewählte Exlibris』

『Zwölf Ausgewählte Exlibris』は彼の代表的な仕事である Exlibris (蔵書票) 12点を集めた作品集である。Exlibris は蔵書の表紙裏に貼る所蔵を表す紙片である。その基本は所蔵者名とその人物を象徴する図像を印刷した小版画作品であり、本作品集はバイロスが12名の依頼者のために制作された Exlibris のオリジナルを集めたものであり、フォトグラビアにより印刷された12点の蔵書票 (Exlibris) と、タイトルと裏面に制作依頼者リストと刊記が刷られた1丁が未綴の状態オリジナルホルダーに収めた作品集。刊年は1920年、刊行地はウィーン、刊行所は Artur Wolf Verlag である。本冊は500部限定刊行中の第464版本である。

12点の作品は全てフォトグラビア (Photogravure : ドイツでは heliogravure と称されているが、歴史的な経緯から考えると Heliography と混同を避けるために Photogravure が適切と思われる) という写真製版印刷によって制作されている。これは主に銅板を利用した凹版印刷であり、その元原理はフランス人のニエプス (Nicéphore Niépce : 写真技術の最初の成功者 : 1822年頃) に由来し、イギリス人のタルボット (Henry Fox Talbot : 写真技術の先駆者の一人) をへて、チェコ人のカール・クリッチ (Karl Klietsch) により1878年実用化された。彼はその技術の改良を重ね1890年代には現代のグラビア印刷技術の基本であるコンベンショナル法を開発し、フルカラーのグラビア印刷を実用化した。

フォトグラビアはコロタイプと並ぶ最初期の写真製版技術による連続階調印刷である。また技術的な熟練によりコロタイプを凌ぐ繊細な表現が可能な印刷方法でもある。バイロスは彼の主要な作品集を『Die Grenouillere』(1907年)、『Erzählungen am Toilettentische』(1908年)、『Bilder aus dem Boudoir der Madame C.C.』(1908年)、『Dulces umbras』(1913年) 及び1911年から1920年にかけて制作された数点の Exlibris 集などである。

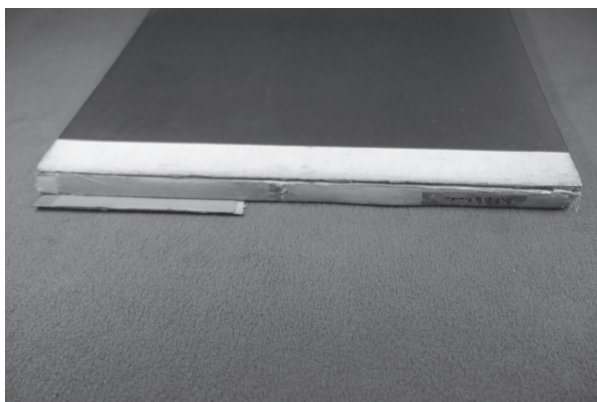
3. Franz von Bayros 『Aus meinen Schloßern』

水彩による原画をもとに凸版のプロセスカラー印刷により1923年に出版された、バイロスが深く関わったと考えられる企画画集。1924年に亡くなっているため、事実上生前最後の出版物である。本冊は930部限定刊行中の第164番本である。10点の作品とタイトルの1丁、作品リストと裏面に刊記を刷った1丁から構成されている。刊行地はウィーン、プラハ、ライプツィヒ、刊行はStrache。

『Aus meinen Schloßern』の印刷は、それまでのコロタイプ、フォトグラビアを中心とした印刷からスクリーンを利用し三原色分解によるプロセス印刷を利用している。これは、彼の作品制作の原画が、黒色インクや鉛筆などを使用したモノクロームの表現から水彩絵具を使用した色彩豊かなものへと変化したためなのか？逆にフルカラーの印刷が可能となったから水彩絵具を使用した原画を制作して刷るようになったのかは不明である。本画集の印刷は凸版による網点【カラー図版5, 6】を使用した重ね合わせによるフルカラー印刷である。ただし、本作品集では表現力を増すためか、YMCK(黄赤青黒)の基本色以外に薄い赤と薄い青を特色として追加している。しかし完全連続階調表現の出来るコロタイプやフォトグラビアと比較すると、表現力とその繊細さはかなり劣ったものと感じられる。

3. 作品の損傷状態と処置方

『Im Garten der Aphrodite』の修理・保存処置



図版1 ホルダーの損傷状態1



図版2 ホルダーの損傷状態1

損傷状態【図版1, 2】

①オリジナルホルダーの損傷

背とのジョイントの切断。背を表装している素材（キャンバス様）の脆弱化による切断及び、タトウのフラップも劣化変色激しく部分的に折り目で亀裂が生じている。

②タイトル紙葉の変色

タイトルの印刷された紙葉は、比較的良好な紙質で劣化などの問題はないがホルダーのフラップのあたっていたところが強い変色を起こしている。フラップの紙からのリグニンの移行によるものと考えられる【カラー図版9】。

③台紙の変色と劣化

作品そのものは上質の紙（日本製の局紙か上質の模造紙）に刷られているので問題は見られないが、

作品が貼付されている台紙は地の板紙の上に薄い上質な紙が貼合されており、板紙の劣化の影響により周囲が強く変色しており、リグニンを多く含む低質な紙と考えられる。

保存・修理方針

①オリジナルホルダーの損傷

オリジナルのフラップに使用された紙は変色、pH測定結果から考えて、本紙に悪影響を与える可能性が高く、また強度も著しく低下しているため保存性の高い紙で新調する。背のキャンバス様の紙は強度がほとんどないので、似寄りのものを制作して使用する。ただし、平の部分は構造的な力が加わらないので、原素材を残し新規の表装材をその下に敷き込んで表装する。

②タイトル紙葉の変色

タイトル紙は作品集の顔に当たる部分であるが、タトウのフラップの影響で強い変色が起こっていて、大変印象を損ねているので水洗と漂白により変色を除去することにする。

水洗と精製水での水洗に合わせて日光漂白を行う。水洗を行う前に十分にドライクリーニングを行う。表面の埃などの汚れの微細なものは、水の浸透にしたがって内部へ引き込まれて除去不能になる可能性がある。水への溶解により除去される成分もあれば、逆に内部に引き込まれ除去できなくなるものもあるので、ドライクリーニングによりできる限り表面の汚れは取り除いておく。

漂白については薬剤による処置は紙への影響が大きいとされる。日光漂白はリグニンによる変色への効果も大きく、また麻布の漂白にも古くから利用されてきた。またタイトル本紙自体は上質の紙でリグニンをほとんど含んでいないと判断して、太陽光による変色も少ないと考えた。処置を行いながら変色部分と本紙の色を観察しながら漂白効果と焼けの発生がないかを確認しながら行うこととする。

日光漂白後、炭酸水素マグネシウム水溶液で脱酸を行い本紙の安定化を図る。

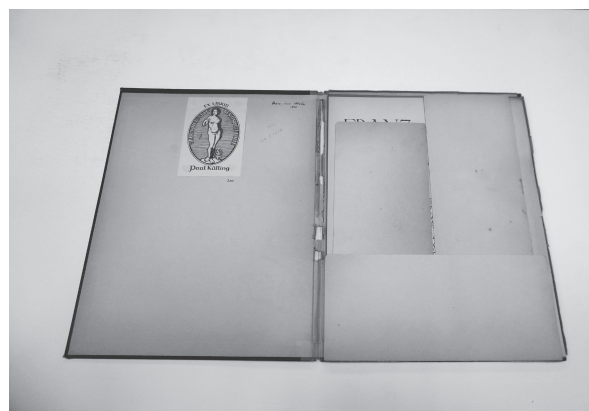
③台紙の変色と劣化

作品18点の貼り込まれた台紙も周囲の変色が強く、基盤となっているボードはリグニンを多く含む紙の使用が考えられるので、温水での洗浄（洗浄の初期段階で本紙の接着剤が緩んでくるので外し、十分に水洗、乾燥して保管する）により劣化したリグニンの除去を行い、その後安定化のために炭酸水素マグネシウム水溶液で脱酸を行い、十分な乾燥後に本紙を貼り戻す。

『Zwolf Ausgewalte Exlibris』の修理・保存処置



図版3 ホルダーの損傷状態2



図版4 ホルダーの損傷状態2

損傷状態【図版3, 4】

- ①オリジナルホルダーの損傷：背とのジョイントの切断。背を表装している素材（パーチメントペーパー紙：模造羊皮紙）の脆弱化による切断及び、タトウのためのフラップも劣化激しく部分的な切断と亀裂が生じている。
- ②台紙の変色と劣化：作品そのものは上質の紙、バイロス作品書誌（参考文献1）によると日本の紙と記述されているので局紙に刷られているので問題は見られず処置の必要はないが、台紙は極度の変色【カラー図版8】を起こしている。また台紙の紙質はバルキーで非常に柔らかい。このような特徴からこの台紙の紙はリグニンの含有率が非常に高く密度の上がりにくいパルプを原料にしていると考えられる。碎木パルプ（GP）を大量に含む低質で安価な紙と考えられる。それを高級な出版物に使用するの一般的には考えられないが、1920年という時代を考えると第一次世界大戦の敗戦国オーストリアの経済的困窮が影響しているのではないかと推測される。
- ③タイトルと作品依頼者リスト、刊記の損傷：当該の紙葉の一部（右小口）に若干の変色と小さな亀裂が生じている。

保存・修理方針

①オリジナルホルダーの損傷

オリジナルの背の表装材は劣化が激しいため再利用できないので新規の素材に変更する。フラップも同様に劣化が進行して切断しているので保存用紙で新調する。ただし、平の部分は損傷が少ないのと構造的な力が加わらないので、原素材を残し新規の表装材をその下に敷き込んで表装する。

②台紙の変色と劣化：台紙は極度の変色を起こしているので取り替えるという選択もあるが、前述のような1910～20年代のウィーンの社会事情を反映しているとすれば、安直に新規の素材に変更して良いのかという疑問が残る。したがって最低限の処置として水洗と脱酸とHPCによる再サイズ（紙に張りを与えて扱いやすくし、本紙への劣化物質の移行を緩和する）を行うことにする。

③タイトルと作品依頼者リスト、刊記の損傷：当該の紙葉の一部（右小口）に若干の変色と小さな亀裂が生じている。

『Aus meinen Schloßern』の修理・保存処置

- ①オリジナルホルダーの損傷：表装に使用されている素材（模造羊皮紙）の表紙の中央から上の（部分）にシミ状の変色が広範に生じている。原因不明、水濡れなどによる障害か？表紙全体が汚れている。一部の角の表装材が剥がれて欠損している。タトウのためのフラップも劣化変色は見られないが、開閉の疲労から部分的に折り目で亀裂が生じている部分がある。
- ②本紙の汚れとフォクシング：本紙には劣化や変色はほとんど感じられないが、全体に経年による汚れが見られる。また小さなフォクシングが全丁に共通してみられる。ただ、小さく薄めのフォクシングなので作品の鑑賞を大きく妨げるということはない。
- ③タイトルページと作品名一覧、刊記の修理：当該の紙葉は二枚の紙を中央でつなぎ、フォリオ形態にしてあるが、接続部分の接着が部分的に剥がれている。また、長年の利用で紙の張りが失われており、サイズが大きいせいもあって取り扱いに不安がある。

4. 修理・保存処置

使用材料

◎ドライクリーニング

消ゴム：可塑剤を含まないプラスチック消ゴムを使用

粉消しゴム：本紙への微粒な粉の残存を防ぐために、可塑剤を含まないプラスチック消ゴムをおろし金で粉状に加工し、それを60メッシュのふるいで分離し落ちなかった大きめの粒子のものを使用。

◎補修用紙

破れ、擦れによる補修：本美濃紙（15 g / 2 × 3 版）

ホルダータトウ用：特製製紙アーカイバルハードボード

『Zwolf Ausgewalte Exlibris』のホルダ背：高越産雁皮紙と本美濃紙を張合せて使用

『Im Garten der Aphrodite』の背の表装は寒冷紗にアクリル絵具を塗布して作成

◎接着剤

メチルセルロース：信越化学 SM100 に正麩糊を添加

『Zwolf Ausgewalte Exlibris』台紙再サイズ：日本曹達 HPC（ヒドロキシ・プロピル・セルロース）

◎洗浄・脱酸処置

水・または温水による洗浄：精製水（イオン交換水を蒸留水して製造）を使用

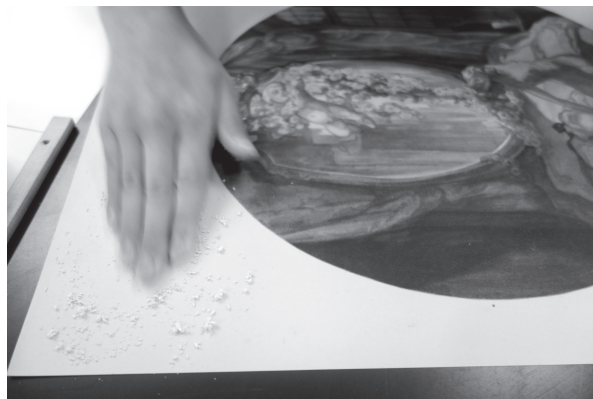
脱酸処置：炭酸水素マグネシウム水溶液を製造し希釈して使用

◎ドライクリーニング

ホルダー、台紙については資料全てについて消ゴム、及び粉消しゴムを使用して汚れの除去を行った。『Zwolf Ausgewalte Exlibris』については本紙の汚れはほとんどなかったので行わなかったが、『Im Garten der Aphrodite』については台紙の剥離の際に温水への浸漬を行ったので、消ゴムを使用して画像部分以外のクリーニングを行った【カラー図版 12】。



図版5 粉消ゴムによるクリーニング1



図版6 粉消ゴムによるクリーニング2

◎台紙の洗浄・脱酸処置

本処置に先だって台紙と本紙のpHを測定する。結果は以下の通り

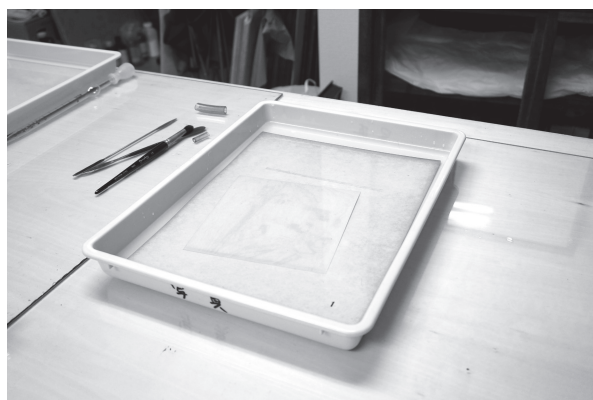
『Im Garten der Aphrodite』台紙がpH：4.0、本紙pH 4.5

『Zwolf Ausgewalte Exlibris』台紙がpH：4.0、本紙pH：測定せず

『Aus meinen Schlossern』本紙pH 5.0



図版7 写真 台紙洗浄・本紙剥離・脱酸処理1



図版8 台紙洗浄・本紙剥離・脱酸処理2

洗浄した温水はかなり黄変し、変色成分が溶出していることがわかる。浸漬は30分程度行い、それを3回繰り返した【カラー図版8】。

処理後のpHの変化は

『Im Garten der Aphrodite』台紙がpH：6.5、本紙pH 7.0

『Zwolf Ausgewalte Exlibris』台紙がpH：5.5、本紙pH：測定せず

『Aus meinen Schlossern』本紙pH：6.0、

『Ausmeinen Schlossern』については、多種類の色材が使用されているので、脱酸はせず温水洗浄のみとし、乾燥後に2%HPCEタノール溶液を塗布して再サイズを行った。

日光漂白

『Im Garten der Aphrodite』のタイトルページの変色が特に激しく、画集の印象を損なっているのでそれのみ漂白を行う。コロタイプ用のインクは油性（アマニ油）で顔料はカーボンなので耐光性に問題はないが画像部分はアルミ箔でマスキングをして太陽光から保護を行った【カラー図版11】。処理時間は約1時間とし、状態を観察しながら処理を行った結果は【カラー図版10】を参照。

タイトルページ、作品名リスト、刊記などの補修

『Zwolf Ausgewalte Exlibris』と『Aus meinen Schlossern』についてはタイトルページなどが若干の損傷を受けているのでその補修を行った。本美濃紙と正麩糊、メチルセルロースを混合した接着剤で補修を行った。ともに補修後に2%HPCEタノール溶液を塗布して再サイズを行った。

ホルダーの補修

三作品共にホルダーに損傷があるのでその補修を行った。『Aus meinen Schlossern』のホルダーは比較的損傷が少ないが、『Im Garten der Aphrodite』と『Zwolf Ausgewalte Exlibris』は中のタトウ部分と背の損傷が大きくその部分は新しい素材に取り替える。特にタトウ状の部分は、本紙への影響も考えられるので安定した素材の使用が求められる【カラー図版13】、【カラー図版14】。

参考文献

1) Brettschneider, Rudolf (1926) Franz von Bayros. Bibliographie seiner Werke und beschreibendes Verzeichnis seiner Exlibris, Leipzig, A. Weigel

2) 山本芳樹 (1998) 『バイロス侯爵画集』, 京都書院